

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

討議年月日:令和 3年 3月 1日～ 5日

公表:令和 3年 3月 7日

事業所名 子ども支援室 えがお

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	2		空間の環境整備をする
	2	職員の配置数は適切である	7			送迎時に職員の出入りがあるので、送迎時を含めての配置を手薄にならないように組み立てていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	4		配慮できるところは整備していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	1	個々の課題シートを作り記入していくようにし始めている。	今後チームでの考案戸を考えている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	1		保護者に結果をお伝えする。具体的な希望を聞き、反映していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	1		ホームページが機能していない。HP更新など担当を決める工夫等負担のないように行うことを考えてみる。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	5		外部機関との連携
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	1		研修、書籍、DVD等学びやすい環境を作っていく。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	1		職員のチームを作り(児発、放課後)チームでの話し合いなどを増やしていく。 ツールを利用しアセスメントからの支援につなげていけるつながりのある支援を強化していく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	2		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	2		職員がどんな立ち位置でも動けるように意識を持つ。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			プログラムは案を全体で出せるように、そのためにスケジュールの各取り組みの土台を作り、部分部分で担当制にしていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	1		子どもからの自主的な活動も大切にしていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7			全体での話し合う時間が持てないのが問題。今後も短時間でも参加できる職員で行いながら伝えていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	1		
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			支援記録の様式に記入していく
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	1		課題記録の見直しを短いスパンで行っていく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	6	1		保護者にも理解をしていただく。個々のニーズ、全体のニーズ

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7			児童発達支援管理責任者が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7		学校側の協力も得られ連携を取りやすい	今後も数人でチェックしていく。渋滞などで迎えが遅れる場合があるときは、連絡を入れる等迷惑をかけないようにしていくが、車内には連絡先などの保管はしない。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	2			重心ではないが、個々に必要なケア、注意事項は徹底していく。アレルギー、てんかんなどにおいても連携をしていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	2			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7				
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	2			相談員のアドバイスや、行政からの研修案内棟には積極的に参加できるように配置を考えていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	3			今年度は感染の心配等から施設への外出は控えてきた。今後未来館等の外出を考えていく(感染予防や保護者の意見を取り入れていく)
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	3			子ども連絡会には児童発達支援管理責任者が参加 コロナで開催の中止が多かったが今後も積極的に参加保護者の声を届けていく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7				
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	6	1			保護者懇談等を企画し、小規模からのペアレントトレーニングを開催していくのはいかがでしょうか？連続講座は毎回の参加ができないという声がある。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7				来年度に向けて報酬の改定等を説明。重要事項、運営規定等の変更を行っていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7				職員一人一人は相談に親身に乘っているが自信がないとの思いもあるので、心理士からカウンセリングマインドなどの勉強会を入れていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	5	SNSなどで保護者同士の連携をつなげている。		現状は父母の会はないが、保護者同士の連携つなぐの機会は今後も作っていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	2			
	35	個人情報に十分注意している	7				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	3			

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7			マニュアルの読み込みから、研修、訓練、反省等を強化 今年度はコロナ感染予防にエネルギーを使った。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	1		有事の時適切な判断動きが取れるようにする必要がある。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	1		コロナは保護者からしか学校の情報はいらなかった。事業所間等での連携、行政での情報伝達の必要性の声を上げたが、行政は個人情報ということで情報はいただけないことは変わらない。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	1		いろいろな学校からの受け入れなので心配。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7			保護者からの伝達。改善に向かっているからよいが定期的に状況を知らせていただくことも必要。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7			職員間で声を掛け合って記入をしまとめる。どんなヒヤリが多いか分析生かしていく。